

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 - II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 - III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 - IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 - V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都市 】

学校名【 京都市立嘉楽中学校 】

1 実践テーマ	Ⅲ
2 実施対象者 (学 年 ・ 人 数)	第2学年 (男子 37 名 女子 28 名)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間) ② 行事名 (人権学習) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目 標 (ねらい)	障がいのある人と共に生きていくために、私たちに何ができるか考える。また、講師を招き、パラスポーツを体験する(ボッチャ)ことで、障がいの有無をこえてやりがいを持って生きることの大切さを学ぶ。
5 取組内容	1 事前学習 壁新聞作成 3～4人のグループに分かれてパラスポーツを調べて、壁新聞としてまとめた。体験学習の前に各競技に興味を持ち、競技をする選手の生き方に触れることができた。 2 講演「障害とは何か？」 (京都市障害者スポーツセンターから講師を招いて) ケガや病気との違いから障害のあるなしにかかわらずスポーツを楽しむためにはどういう工夫ができるか 準備運動(ストレッチ) 目を閉じた相手に言葉だけでストレッチをさせる パラスポーツ体験(ボッチャ) 3 事後学習 体験を通して「共生社会の実現に向けて自分達に何ができるのか」について考え意見交流を行った。

6 主な成果	事前学習の壁新聞作成を通して、インターネットや書籍から必要な情報を集めることができた。まとめ作業をすることで、パラスポーツの成り立ちを知り、人権学習として行うパラスポーツ体験に関心と意欲を持って取り組むことができた。 ボッチャは初めての経験となったが、積極的に参加する前向きな姿勢が見られた。始めはボールを置きたい場所に投げるのに苦戦していましたが、だんだん微調整ができるようになり盛り上がっていた様子から、パラスポーツそのものを楽しむことができた。 また、選手の方とこちらの打合せを行い、体験がうまくすすむように配慮できた。また、事後学習のようすから、共生社会の実現に向けて自分たちができることを考える機会となった。 (生徒の感想より) ・自分の障がいを理解して新しくスポーツをはじめようと思い行動にうつすことが素晴らしいと思った。 ・自分は～が不自由だから…とか、自分は障害があるから…と下を向いてしまうのではなく、周りの人たちも一緒にどうしたら～ができるのかと考える事が大切だと思いました。 ・今日話を聞いて一番心に残ったのは、「失ったものを数えるのではなく残されたものを最大限に使う」という言葉です。 ・障がいは個性で、ひとそれぞれに個性があるのは当たり前だと、憶えておきたい。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	・事前学習を行い、さまざまなパラスポーツを知り、パラスポーツに情熱を傾ける人達の想いや競技そのもののおもしろさに関心を持たせるようにした。 ・事後学習では、体験をふまえることで、共生社会で自分たちができることについて学習を深めることができるようにした。
8主な課題等	学校設備（スロープ、トイレの整備）
9来年度以降の実施予定	継続する予定。